

【小学生の部：会長賞②】

「今も光っている笑顔」

長野県・長野市立芋井小学校
6年 武江 心平 さん

「ドクン、ドクン。」

心の中が熱くなる。今日は、長野ろう学校のレモンデイズのみなさん（耳が聞こえにくい方々）と交流をする。ぼくは、

「うまく会話できるかなあ。自分のいいたいこと、伝わるかなあ…。」

と不安だった。ぼくたちは、それまで、おじいちゃんおばあちゃんとは、たくさん交流してきた。けれど、こんなに不安なのは、四年生のころの初めての交流以来だった。ぼくは大きな声で

「こんにちは。」

と言って部屋に入ると心ぱく数が上がった。交流が始まって、ぼくも、ずっと不安で声もいつもより小さかった。しかし、交流をしていると、いつの間にか不安は消えていた。それは、レモンデイズのみなさんが、笑顔を絶やさず、ぼくとかかわってくれたからだ。おかげでとても温かい空気に包まれていた。レモンデイズのみなさんは、最後に、ぼくたちに夢を語ってくれた。みんな、ぼくたちと変わらないしっかりした夢を持っていた。ぼくは、障害を持っているようがいまいが、だれの夢も輝いているんだと感じた。その時、ぼくは想像してみた。

「もしも自分の耳が聞こえづらかったら…。」

「ほかの人はふ通に聞こえるのに。」

とばかり考えてしまうのではないか。そして、一生割れることのないからの中で一人でずっと悲しんでいるかもしれない。けれど、レモンデイズのみなさんからは、そんな悲しい気持ちは全く伝わってこなかった。むしろ、ぼくたちよりも毎日を楽しんで、毎日、幸せに生活しているのを感じた。レモンデイズのみなさんが、ぼくたちに手話で問題を出してくれた時の表情はとても明るくて、自分の心の中が「ほわ～ん。」として温かい気持ちでいっぱいになった。

「ありがとうございました。」

交流は終わった。ぼくは、

「もっと一緒に遊んだり、話したりしたいなあ。」

という気持ちだった。ぼくは、先月、静岡に水泳の大会にいった。全くいい結果が出なかった。その時、ぼくは、レモンデイズのみなさんのことを思い出し

た。

「こんな所で落ちこんでいちゃいけない。」と。

「レモンデイズのみなさんのように明るくまた次に向かって笑顔でがんばらな
いと。」

と思った。交流の時のレモンデイズのA君の明るい笑顔がむねをよぎった。